

京都大学KURENAIでの研究データ公開事例

～研究データ（根拠データ）とは何か？に対して一(いち)図書館職員が
この1年間悩んだ記録～

京都大学附属図書館 研究支援課長
野中雄司

50

Slides



即時OAに備える（その2 根拠データの登録に備える）
2024年度第6回JPCOAR Webinar 事例報告
令和7年3月6日（木）
@オンライン

北海道大学
附属図書館

13年

係員10年
係長3年

室蘭工業大学
附属図書館

3年

係長3年

東京大学
附属図書館

4年

係長4年

富山大学
附属図書館

3年

課長3年

京都大学
附属図書館

1年目

課長1年



本日の シナリオ

- 1 京都大学の研究データマネジメント支援体制
- 2 研究データ（根拠データ）とは何か？に対して一(いち)図書館職員がこの1年間悩んだ記録
- 3 論文の付録データの場合（京大での対応事例）
- 4 根拠データ単体公開の場合（京大での対応事例）
- 5 研究データ単体登録時の運用上の悩みや課題

1

京都大学の研究データマネジメント支援体制

はじめに：京都大学における研究データマネジメント支援

京都大学研究データ管理・公開ポリシー（2019年度）

5. 京都大学は、研究データ管理および公開を支援する環境を整える責務がある。

ポリシーについての解説・補足

⑩ 本ポリシーにおける「公開」とは、保存する研究データを、利用者を限定せず利用を許可する「一般公開（Publish）」と、限定された利用者によりのみ利用を許可する「共有（Share）」とを含む概念とする。「公開」しない場合は、「非公開」となる。

- 「一般公開（オープン）」：アクセス制限なく誰でも利用できるデータ→公開データ
- 「制限公開（セミオープン）」：利用目的・利用方法等を明らかにした上で、研究データへのアクセス申請を承認された研究者が利用することが可能な研究データ→共有：外部関係者共有データ
- 「制限共有（セミクローズ）」：課題採択時にデータマネジメントプランに記載された研究者及びデータアクセス申請を承認された研究者の間で共有できる非公開データ→共有：内部関係者共有データ
- 「非公開（クローズ）」→その他データ

はじめに：京都大学における研究データマネジメント支援

ポリシーについての解説・補足

- ⑪ 研究者が適切な研究データ管理および公開を実現できるよう、具体的には、以下のような支援を行う。
- a. 適切に研究データ管理を行えるデジタルプラットフォームを提供する。
 - b. 研究データを公開することのできる機関リポジトリ等の公開プラットフォームを提供する。
 - c. 研究データ管理・公開に関する周知、法務または契約関連等を含む各種アドバイス、教育研修等、研究者に必要な支援を提供する。
 - d. 本ポリシーを構成員に正しく実施させる。そのための活動を実施・支援する。
 - e. 部局等において、本ポリシーの主旨を尊重した上で、研究データ管理・公開に関して独自の実施方針や規程等を策定することを支援する。
 - f. 社会状況や学術状況の変化あるいは法および倫理的要件の変化に応じて、適宜本ポリシーの見直しを行う。

a → RDM Drive等 <https://rdm.kyoto-u.ac.jp/docs/services/store-share/>

b → KURENAI

図書館機構は、b, c を主に担当

公開資料では非公開とさせていただきます

公開資料では非公開とさせていただきます

私自身のスタンス

- 京大自身もかなり以前から研究データに関する支援体制は準備してきており、義務ではなく、科学の発展のために
- 研究成果の発信は、知識の循環を支援してきた図書館にはなじみが深い。
- また、インターネットの発展により、急激に知識の生産者と消費者（読者）の距離が縮まってきている。知識の一大生産拠点である大学所属研究者が直接発信をし、かつ大学がそれを支援するのは当たり前の流れではないか。
- ということで、自分自身としても「義務」ではなく、前向きに科学の発展のために！

2

研究データ（根拠データ）とは何か？
に対して一(いち)図書館職員がこの1年間悩んだ記録

私が今年度はじめに疑問に思ったこと

1. 根拠データはジャーナルサイトでは、どのように公開されているの？
2. 論文は著作権譲渡されるけど、根拠データの著作権はどうなっているの？
3. 研究データは多種多様だけど、機関リポジトリではどんな公開方法があるの？

1. 根拠データはジャーナルサイトでは、どのように公開されているの？

- Nature Communications を例に（一つの雑誌でもこんなにいろんな形態が！）
 - <https://www.nature.com/ncomms/>
- 出版社サイト内で公開（雑誌の付録データのような）
 - <https://doi.org/10.1038/s41467-025-57010-6>
- 外部リポジトリへリンク：汎用リポジトリ（外部へのリンク）
 - <https://doi.org/10.1038/s41467-025-57272-0>
- 外部リポジトリへリンク：分野リポジトリ（外部へのリンク）
 - <https://doi.org/10.1038/s41467-025-56715-y>
- 著者にリクエスト（こんな方法もあるんだ）
 - <https://doi.org/10.1038/s41467-025-57279-7>

1. 根拠データはジャーナルサイトでは、どのように公開されているの？

nature communications

View all journalsSearchLog in

Explore content ▾About the journal ▾Publish with us ▾Sign up for alerts 🔔RSS feed

[nature](#) > [nature communications](#) > [articles](#) > article

Article | [Open access](#) | Published: 25 February 2025

Local halide heterogeneity drives surface wrinkling in mixed-halide wide-bandgap perovskites

[Kunal Datta](#) , [Simone C. W. van Laar](#), [Margherita Taddei](#), [Juanita Hidalgo](#), [Tim Kodalle](#), [Guus J. W. Aalbers](#), [Barry Lai](#), [Ruipeng Li](#), [Nobumichi Tamura](#), [Jordi T. W. Frencken](#), [Simon V. Quiroz Monnens](#), [Robert J. E. Westbrook](#), [Daniel J. Graham](#), [Carolyn M. Sutter-Fella](#), [Juan-Pablo Correa-Baena](#), [David S. Ginger](#), [Martijn M. Wienk](#) & [René A. J. Janssen](#) 

Nature Communications **16**, Article number: 1967 (2025) | [Cite this article](#)

876 Accesses | 9 Altmetric | [Metrics](#)

Abstract

Compositional heterogeneity in wide-bandgap (1.8 – 2.1 eV) mixed-halide perovskites is a

Download PDF 

Sections

Figures

References

[Abstract](#)
[Introduction](#)
[Results](#)
[Discussion](#)
[Methods](#)
[Data availability](#)
[References](#)
[Acknowledgements](#)

1. 根拠データはジャーナルサイトでは、どのように公開されているの？

Data availability

[Source data](#) are provided with this paper.

ジャーナルサイト内で付録データも公開

Data availability

The data supporting the findings of this work are available within the articles and Supplementary Information files. Source Data file has been deposited in Figshare under accession code DOI link <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.28468565>⁵⁵. Source data for all graphs are provided in this paper.

Figshareで公開されているものにリンク

Data availability

The sequencing data generated in this study have been deposited in the GEO database under accession code [GSE244557](#). [Source data](#) are provided with this paper.

分野の専門リポジトリで公開されているものにリンク

Data availability

Source data for the figures in the main text and Supplementary Figs. are provided with this paper. The uploaded source data includes the processed data that can reproduce the entire key findings of this study. The raw TRXL data, which is not uploaded due to capacity issues, is securely stored on the archive servers of the beamline facilities and will be made available upon requests from readers. All other data generated in this study to support the findings of this study will also be available from the authors upon request. [Source data](#) are provided with this paper.

著者にリクエスト連絡すれば、
詳細なデータを送付できるよ

2. 論文は著作権譲渡されるけど、データの著作権はどうなっているの？

出版社に担当掛から問い合わせてもらった（夏くらい）

本日は1点お伺いしたい点があり、ご連絡いたしました。
近年、学会やジャーナルの投稿規定等で、論文の根拠研究データの公開を求めることが多くなってまいりました。

そこで、お伺いしたいのですが、貴社には論文の根拠研究データを登録するプラットフォームはありますか？

そのプラットフォームに、研究者(論文著者)が研究データを登録する際、その研究データについての何らかの権利の移転が発生しますでしょうか？

公開資料では非公開とさせていただきます

2. 論文は著作権譲渡されるけど、データの著作権はどうなっているの？

(簡単なまとめ)

- 出版社は自前の研究データリポジトリは保持していないケースが多そう
- データのライセンスは、出版社でもジャーナルによるなど一律ではないようだが、論文のように出版社に著作権譲渡されるケースはあまりなさそう。

3. 研究データは多種多様だけど、機関リポジトリではどんな公開方法があるの？¹⁸

- 出版社サイトでの公開方法は、多種多様のパターンがあるが、基本的には出版社サイト内で付録データ的に配置しているケースと外部リポジトリに格納された研究データにリンクしているケースが多そう。
- 機関リポジトリへの「登録」という意味では、単純に論文の付録データと、単独でのソースデータ（データセット）公開という2種類で整理できそう。
（CiNii Researchでも！）

3. 研究データは多種多様だけど、機関リポジトリではどんな公開方法があるの？¹⁹

KURENAIではまずは以下のパターンで考え方の整理を行うこととした

① 論文付録データ ← 論文 から論文と一緒に登録

- 論文へ添付する比較的簡易な根拠データ
- KURENAIにも論文に添えて登録（論文と同じ識別子）

② ソースデータ ← 研究データ から登録

- 研究素材として収集又は生成された一次データ／一次データ等を加工や情報追加して生成されたデータや、一次データ等进行分析してできたデータ等
- KURENAIには単独アイテムとして登録（個別識別子）

CiNii 「「研究データ」「根拠データ」の収録について」より（抜粋）

「研究データ」「根拠データ」の収録について

ヘルプ

CiNii Re

これに関し国内の機関リポジトリにおいては、「研究データ」および「根拠データ」の公開にかかり、特に「根拠データ」への対応について、以下の2通りの様式が見られています。

- 様式（A）：「研究データ」として、個別の1アイテムとして登録する。
- 様式（B）：論文を公開する主アイテムの一部として、「根拠データ」のファイルを付属する形で公開する。

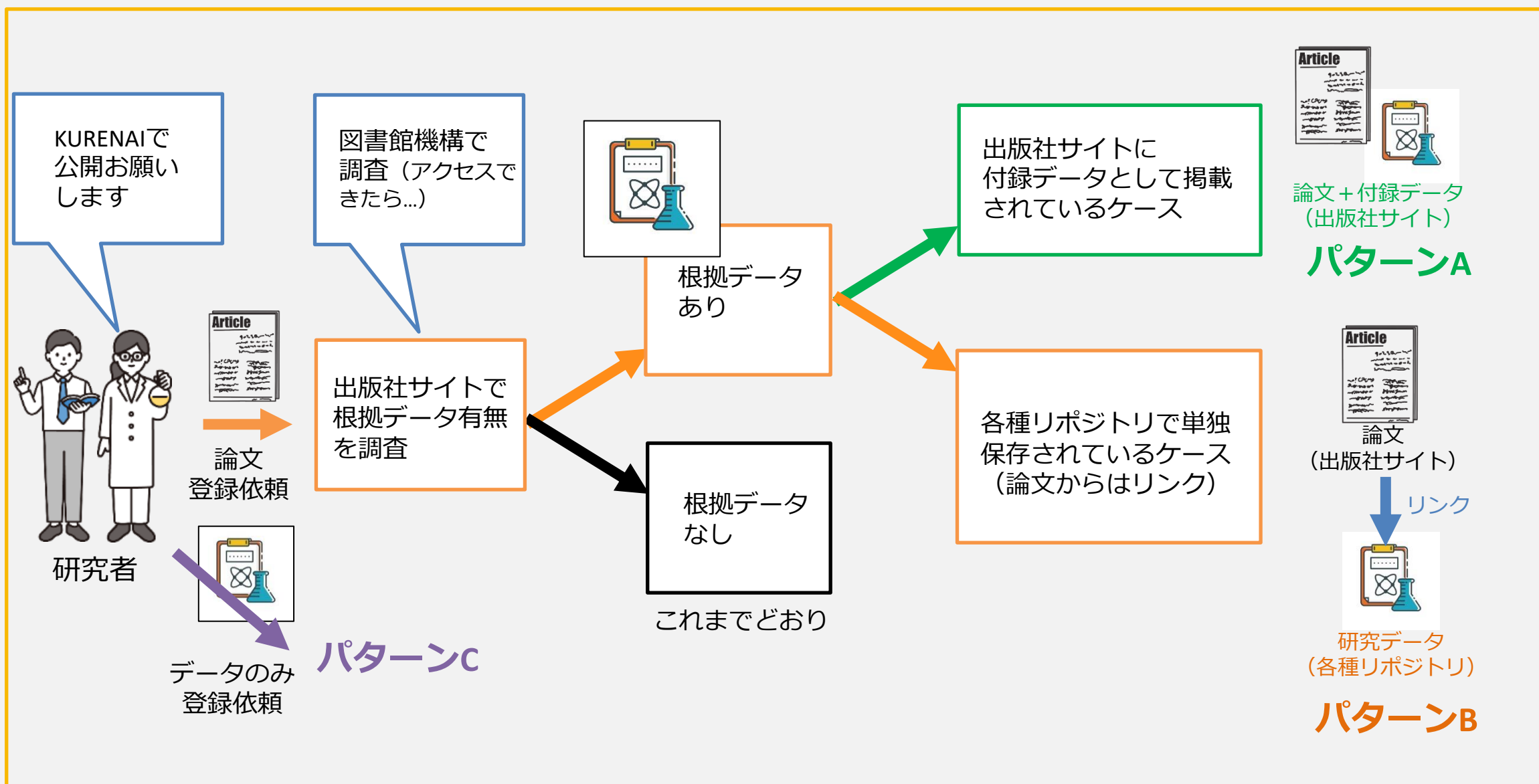
「研究データ」「根拠データ」にかかる適切な登録・公開のお願い

「研究データ」もしくは「根拠データ」に該当するデータについて、様式（A）と様式（B）のどちらで公開することが適切であるかは、その公開しようとするデータの性質によって異なります。

- 独立した成果としての研究データは 様式（A） を用いて、メタデータと共に研究データを登録・公開してください。
- 論文の一部として公開することが適切である研究データは 様式（B） で、論文とともに研究データを登録・公開してください。

3

論文の付録データの場合 (京大での対応事例)



KURENAIでのパターン別扱い（パターンA）

研究者から登録依頼があった論文について、出版社サイトに付録データとして掲載されてた！

- KURENAIでは現在は1件1件根拠データ有無の確認は行っていない。
- が、以下のような扱いを検討中（気が付いたら...）
 - 研究者に追加でファイルを送ってもらうよう追加連絡？
 - ジャーナルサイトからダウンロードしたファイルを登録し、研究者に登録完了お知らせをする際にその旨伝える？
 - もし登録を促す案内連絡をする場合は、付録データがあれば一緒に送ってくれるよう最初から一緒に連絡？

※ 研究者から論文と一緒に付録データを送ってくれるケースももちろんある。即時OA義務化でこれから増えるか

KURENAIでのパターン別扱い（パターンA）

研究者から登録依頼があった論文について、出版社サイトに付録データとして掲載されてた！

付録データは以下のように登録

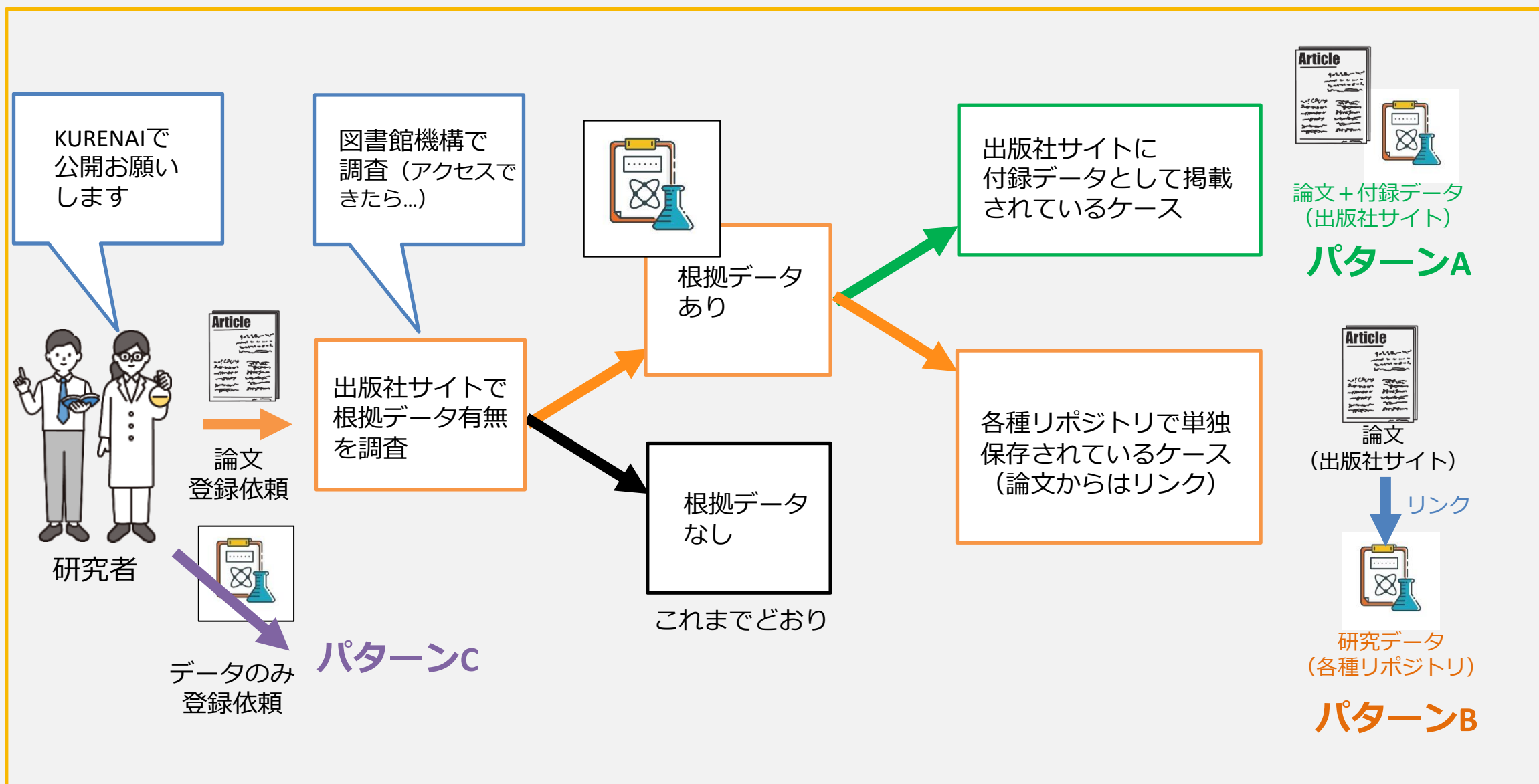
- データがグラフ等の数ページ程度のものであれば、論文とデータをPDF化して、がっちゃんこして登録
- Excelやcsv等でPDFががっちゃんこに適さない場合は、同じアイテム内に別ファイルとして登録

※ 基本的には、付録データそのものは著作権譲渡されていないか、論文の著作権ポリシーと同等の扱いで問題ないと考えている。（ただ、そうではないジャーナルもあるかもしれない、これから経験値を積むことになるか）

3

根拠データ単体公開の場合 (京大での対応事例)

機関リポジトリで考えられるフロー

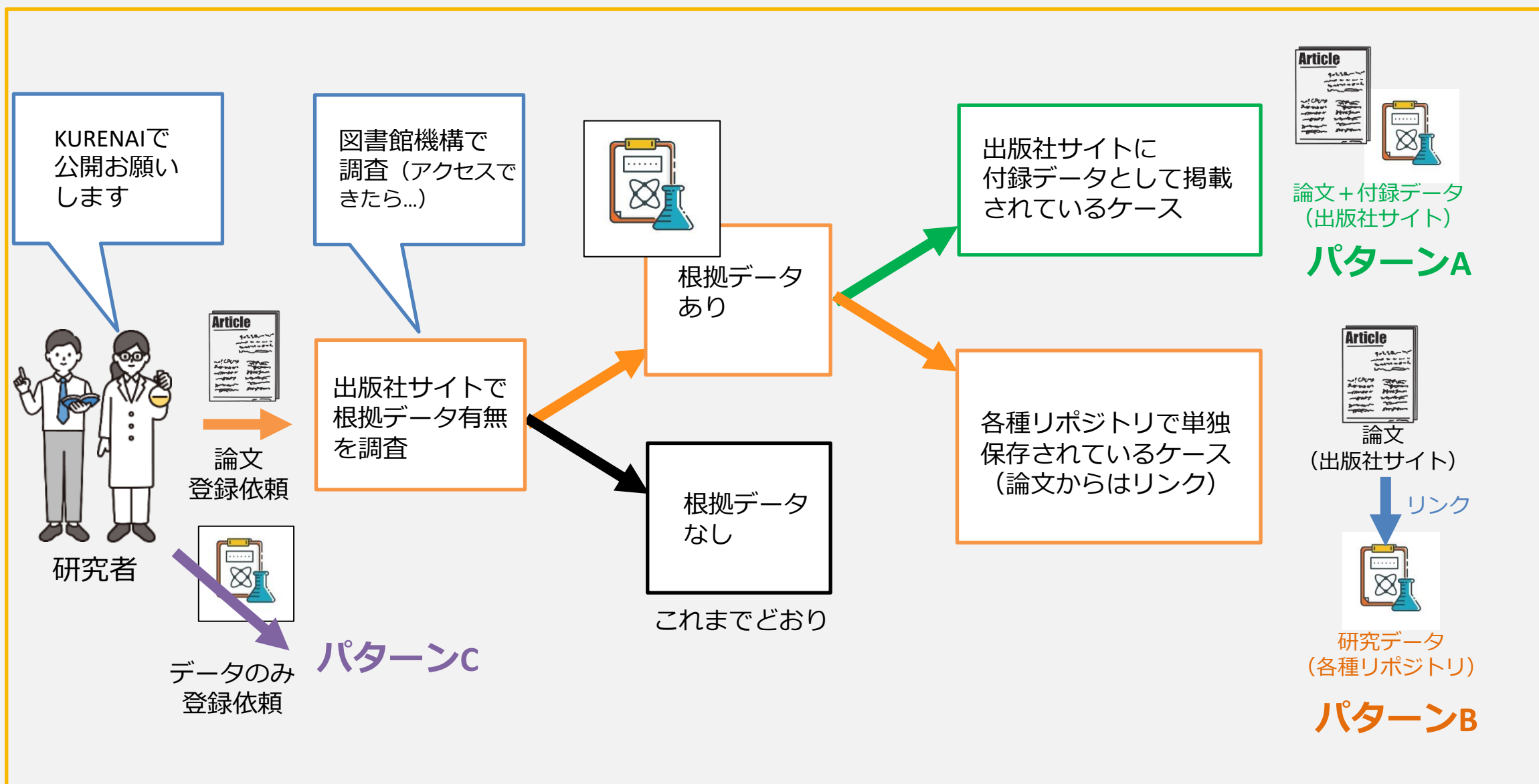


KURENAIでのパターン別扱い（パターンB）

研究者から登録依頼があった論文について、出版社外部リポジトリに根拠データ（ソースデータ）が登録されていた！

- KURENAIでは現在AM（著者最終稿）の登録依頼があった際に、研究データが出版社外部リポジトリで公開されているかどうか、全件は追跡していない...
- が、オープンになっているデータがあれば、メタデータになんらかの形でその根拠データへリンク形成すると読む人に親切と思われ、今後確認してのリンク形成を検討したい

機関リポジトリで考えられるフロー



KURENAIでのパターン別扱い（パターンc）

研究者から研究データの登録依頼があった！

- KURENAIで研究データを（論文より先に）登録し、論文の根拠データとして論文からKURENAIへリンクするケース

（以下のようなパターンもあり）

- 査読時に研究データの限定閲覧（査読者のみが閲覧できる）が求められており、かつ査読後アクセプトされた場合はそのままKURENAIで公開したいケース

※ 公開後は、上記と同様に論文からKURENAI上の研究データへリンク

※ KURENAIでは今年度はここまで約20人の研究者から、約30件のデータ登録

Permalink : <https://doi.org/10.57723/276374>

(2)図書館側でDOIを付与

ファイル	記述	サイズ	フォーマット
beauty_1_org.csv MD5 : 57b907455c1905a0abf		2.17 MB	CSV 見る/開く
beauty_2_org.csv MD5 : 53c4bfc41526629c80b225/e1/c/edde			見る/開く
タイトル:	Actual sales dataset and booking curves time series in the hotel, car rental, and beauty salon properties		
その他のタイトル:	ホテルとレンタカー、美容院施設における、販売実績データとブッキングカーブ		
著者:	Shintani, Masaru Umeno, Ken  https://orcid.org/0000-0002-9162-1261 (unconfirmed)		
著者名の別形:	新谷, 健 梅野, 健		
キーワード:	actual sales data booking curve 販売実績データ ブッキングカーブ		
発行日:	27-Sep-2022		
DOI:	10.57723/276374		
URI:	http://hdl.handle.net/2433/276374		
関連リンク:	https://doi.org/10.1038/s41598-023-42745-3 https://doi.org/10.21203/rs.3.rs-941798/v2 https://doi.org/10.14495/jsiaml.14.45 https://doi.org/10.14495/jsiaml.14.49		

(1)研究者は論文根拠データを
先にKURENAIに公開

(4)論文が出版されたら
KURENAIの研究データから
論文にリンク

Average booking curves draw exponential functions

[Masaru Shintani](#) & [Ken Umeno](#)

Scientific Reports **13**, Article number: 15773 (2023) | [Cite this article](#)

2533 Accesses | 19 Altmetric | [Metrics](#)

出版社サイト

Abstract

The booking curve time series in perishable asset industries, including hotels, has been studied to manage a demand-supply condition or revenue management (RM). However, due to changing times, e.g., economy and technology, many RM practitioners have put their efforts into catching on to peoples' booking pattern shifts, representing macroscopic changes in booking curves. We investigate macroscopic aspects of booking curves with actual sales data across six properties in the hotel and car-rental industries for two years, considering the difference in the economic environment characterized before and during the COVID-19 epidemic. We explain a new cross-

Conclusion

This study is based on actual sales data for the two years of 2019 and 2020 from six properties in multiple industries, including the hotels and car rental fields. We investigated macroscopic aspects of booking curves, considering the difference in the economic environment characterized before and during the COVID-19 epidemic. We explain a new cross-industry booking curve law from the people's booking pattern shifts. the ABCDEF law from the people's booking pattern shifts.

(3)研究者はDOIを論文に引用
して論文執筆・投稿

Data availability

The datasets analyzed during the current study are available in the Kyoto University Research Information repository, <https://doi.org/10.57723/276374>.

References

KURENAIへの研究データ公開依頼

KURENAI公開支援システム

?

野中 雄司

English

←

ホーム

新規登録

流用登録

一時保存中

査読中

公開処理中

公開済

新規登録

新規にDOIから論文情報を補完して登録する

論文

を登録する

+ Q. 論文と一緒に根拠データを登録したい

研究データ

を登録する

+ Q. 研究データのみを登録したい

+ Q. 研究データとは？

+ Q. 研究データを登録するとどうなる？

その他の研究成果

を登録する

+ Q. その他の研究成果とは？

KURENAI公開支援システム（新規登録：研究データ1）

KURENAI公開支援システム

①入力 ②確認 ③登録完了

野中 雄司 English

ホーム

新規登録

流用登録

一時保存中

査読中

公開処理中

公開済

新規登録 研究データ

研究データ情報

ファイル (必須) ※複数ファイル可
※ファイルサイズが1ファイルで5GBを超える場合は事前にお問い合わせください。KURENAIにそのまま登録できない場合があります。
※問い合わせ先：附属図書館研究支援第三掛 (repository@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

ドラッグ&ドロップでファイルをアップロード、またはクリックしてファイルを選択

データのタイトル (必須) このデータのタイトルを入力してください

作成者 (必須) このデータの作成者を入力してください。複数の場合は「, (カンマ)」で区切ってください

キーワード (必須) このデータのキーワードを入力してください。複数の場合は「, (カンマ)」で区切ってください

内容記述, 補足説明 (必須) このデータの簡易な説明を入力してください

本データを引用した論文のタイトル 本データを引用した論文のタイトルを入力してください

DOI/URL 本データを引用した論文のDOIやURLを入力してください

「ファイルサイズが1ファイルで5GBを超える場合は事前にお問い合わせください。」

（超える場合は、個別判断。悩んでいるが、ストレージ容量は一定程度確保できており現時点で当面厳密なルール化は行わない予定）

「キーワード」「内容記述」は必須項目とし、必要最低限のデータの中身はわかるように記載をお願い

KURENAI公開支援システム（新規登録：研究データ2）

KURENAI公開支援システム

←

ホーム

新規登録

流用登録

一時保存中

査読中

公開処理中

公開済

?

野中 雄司

English

査読用に使う場合

シークレットURLを取得する ☐ 取得する ☒ 取得しない

論文発表前（執筆中）で論文根拠データをKURENAI公開前に査読者とのみ共有したい場合は「取得する」を選択し、確認画面で「この内容を保存してシークレットURLを取得する」ボタンを押してください。その場合は有効期限日を設定してください(最大1年後)。査読用に一時的なシークレットURLが生成されますので、そのURLを編集部に送ってください。
すぐにKURENAI公開申請される方は「取得しない」のまま「この内容で登録する」してください。

公開情報

ファイル公開開始日 (必須) ☒ 即時 ☐ 日付指定 ☐ 未定

公開者 (必須) このデータの作成者を入力してください。複数の場合は「, (カンマ)」で
※KURENAIでは[出版社]項目に表示されます。

二次利用の条件 (必須) CC BY (表示)
+ Q. CCライセンスとは？

【論文根拠データをKURENAI公開前に査読者とのみ共有したい場合】
「取得する」を選択すると、査読用にシークレットURL（知ってる人のみが根拠データにアクセス可能）が生成される。（そのURLをジャーナル編集部に送ってもらう）

公開日は日付指定（エンバーゴ）も可能（査読を意識して）

二次利用条件はプルダウンで以下から選択（初期画面CC BYだが悩み中）

- CC ...（各種CCライセンス）
- CC 0
- 二次利用条件を指定しない
- その他（GPL3.0+などライセンス名を記入してください）

KURENAI公開支援システム（新規登録：研究データ3）

KURENAI公開支援システム

ホーム 新規登録 流用登録 一時保存中 査読中 公開処理中 公開済

新規登録 研究データ

シークレットURLが発行されました。（研究データID：576082）
<https://openaccess.kulib.kyoto-u.ac.jp/private/bef6ed955448bae0d2cc6cfc4f7619b11ae7e9> (有効期限2025/05/19)

査読が終わりましたら、画面下の「この内容で登録する」を押してください。または、ファイルの更新等がある場合は画面右の【問い合わせ】から、図書館にお知らせください。

なお、シークレットURLは「この内容で登録する」を押した段階で、また有効期限日を迎えた段階で、シークレットURL上の研究データは自動的に削除されます。自動的に削除はできません。

【注意】シークレットURLを入手した人は誰でも本データにアクセスできますので、シークレットURLは慎重に取り扱ってください。

※その他、取得したDOI等の詳細につきましては[査読中]からご確認ください。

Download (6.3 KB) 有効期限 Expiry Date : 2025-05-19
 ダウンロード回数 0

【注意】 Attention

- 有効期限日を迎えた段階で、データは自動的に削除されます。
The data will be automatically deleted once the expiration date is reached.
- シークレットURLを入手した人は誰でも本データにアクセスできますので、シークレットURLは慎重に取り扱ってください。
Please handle the secret URL confidentially, as anyone who obtains the secret URL will be able to access this data.

公開しない研究成果

投稿予定の論文の根拠データをKURENAI公開前にまずは査読者とのみ共有したい場合

→シークレットURLを取得
 （URLを知ってる人だけがアクセス可能。研究者はそのURLをジャーナル編集部に送る。）

KURENAI公開を前提とした、あくまで一時的な機能

→査読が終わり次第KURENAI登録・公開申請へ

KURENAI公開支援システム（新規登録：研究データ4）

KURENAI公開支援システム

←

ホーム

新規登録

流用登録

一時保存中

査読中

公開処理中

公開済

※KURENAIでは[出版社]項目に表示されます。

二次利用の条件 (必須)

その他 (GPL3.0+などライセンス名を記入してください)

+ Q. CCライセンスとは？

二次利用の条件 (その他) (必須)

GPL3.0+などライセンス名を記入してください

その他

確認事項 (必須)

☐ 当該研究データに、[個人情報](#) や [安全保障輸出管理](#) 等の法的問題にかかわる事項、[出題予定の発明](#) 等、及び企業の秘密情報は含まれていません。

☐ 助成機関や企業の契約等によって、また当該分野の研究コミュニティでの法的および倫理的要件等により、一般公開に制約がある内容を含んでいません。

☐ 公開に際してデータに権利を持つ全員の合意を得ています。

☐ 本データのダウンロードに制限はありません。

コメント

DOIを取得する ?

☐ 取得する ☒ 取得しない

キャンセル

一時保存

入力内容を確認する

個人情報等の制約条件などは、ここで確認事項としてチェックしてもらう（後述）

DOIは、JaLC経由でDataCiteのDOIを付与

論文とデータがつながり、
新たな研究の展開へ

研究成果
学術論文



研究成果の
根拠となる
研究データ



データファーストな オープンアクセス研究サイクルが 実現できます！



研究者は
DOI*を論文に引用して
論文執筆・投稿

DOI*を付与

京都大学学術情報リポジトリ **KURENAI 紅**
Kyoto University Research Information Repository
🔗 <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

研究データを
公開



スムーズ登録！

詳しくは
こちら



KURENAI を使うメリット

- 1 登録したコンテンツへの永続的なアクセスを保証
- 2 国際的な識別子 DOI* が付与され引用が容易、可視性が向上
- 3 Google Scholar や CiNii 等、様々な検索エンジン・データベースの検索対象に
- 4 シークレット URL を発行して、査読者とのみ共有可能！

★



DOI とは

ご存じ
でしょうか？

2025 年度から競争的研究資金（科研費など）を得た場合、研究成果である論文とその根拠となるデータを学術雑誌への掲載後、即時公開することが義務づけられました。そのため、機関リポジトリ等の情報基盤への登録が必須となります。

5

研究データ単体登録時の運用上の悩みや課題

研究データ単体登録時の運用上の悩みや課題

- ① プラットフォーマーとしての責任が、これまでのコンテンツに比べて大きい
- ② 公開可否について
- ③ 公開条件の指定について

悩み：① プラットフォーマーとしてのスタンスを改めて

① プラットフォーマーとしての責任が、これまでのコンテンツに比べて大きい

これまでリポジトリが主に扱ってきたコンテンツ↓は、基本既にPublishされているものであり、コンテンツに対する質保証や内容保証がなんらかの形で行われているものが多かった。

学術雑誌論文（いわゆるGreenOA）	出版社・学会等の発行元
紀要	紀要の発行元
学位論文	大学や当該研究科等
教材	授業で使用されているものが多く、なんらかのフィルターがかかっている
学会発表資料等	基本発表済であり、なんらかのフィルターがかかっている

単独公開する根拠データ（データセット）は、研究者や研究グループが責任を持ちつつ、プラットフォーム（リポジトリ）側も、特段の第三者チェックがないまま直接公開(Publish)することになる。そのため追加の説明やルール整備、ガイドライン整備を行う必要があるかもしれない？

②③の悩みにも関連

悩み：②公開可否について

- 特に公開可否に関して、デリケートなデータは当然多くあり、汎用リポジトリである機関リポジトリはどこまでの支援（アドバイス等）ができるか。（基本研究者判断としても）
- 「研究データ公開前チェックフロー」を作成し、登録依頼前に確認をお願いしているが、個々の案件にどこまで寄り添えるか？

KURENAI公開支援システム マニュアル

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content0/1370229#section3-1>

研究データ公開前チェックフロー

https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/uploads/flowchart_rd.pdf

※チェックフローは以下を参考に作成

国立情報学研究所実務研修 令和元年度の記録 三上絢子

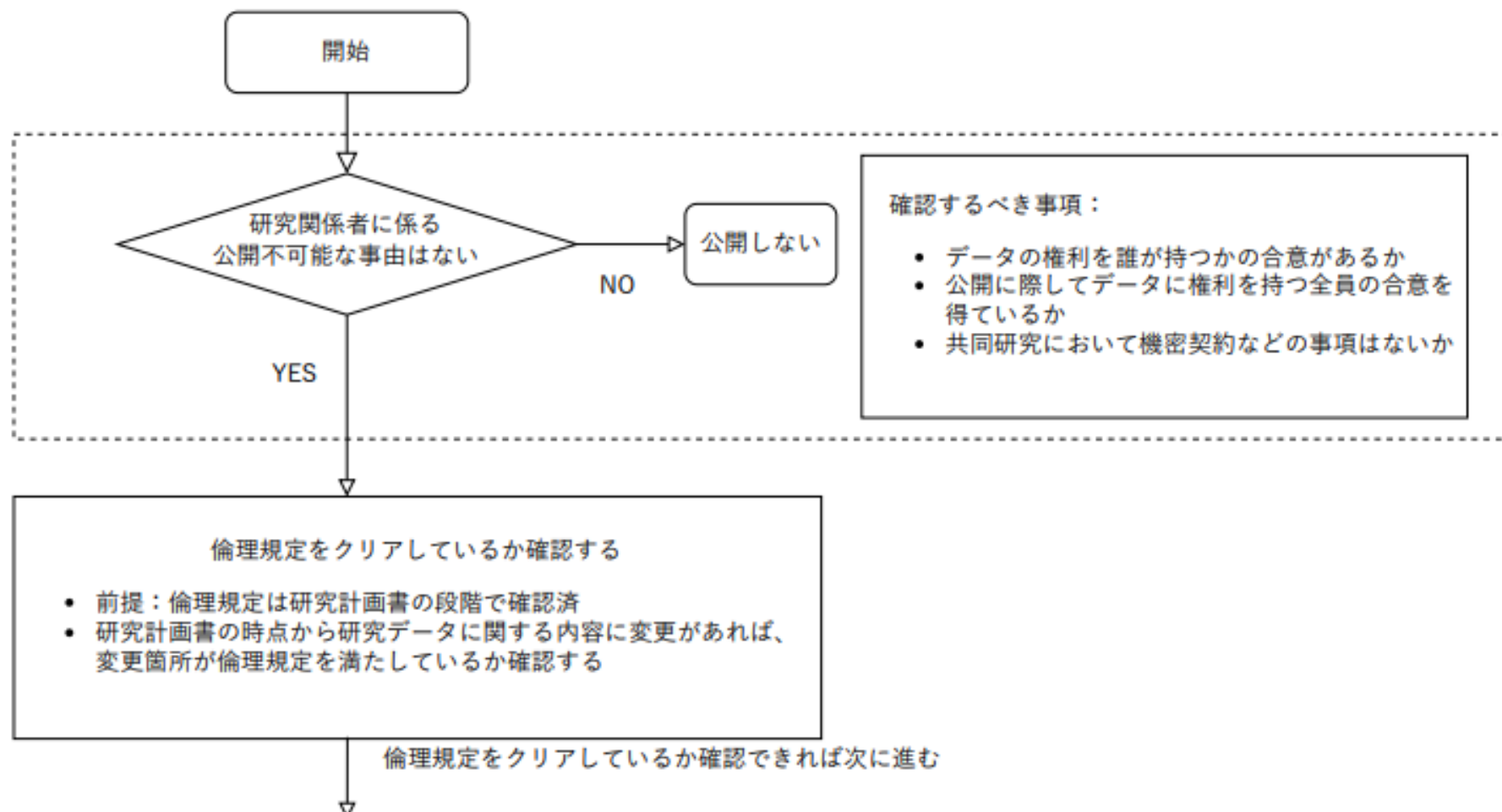
<https://contents.nii.ac.jp/hrd/jitsumu/2019/result>

https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/2020-04/2019-1_flowchart.pdf

KURENAIにおける研究データ公開前チェックフロー

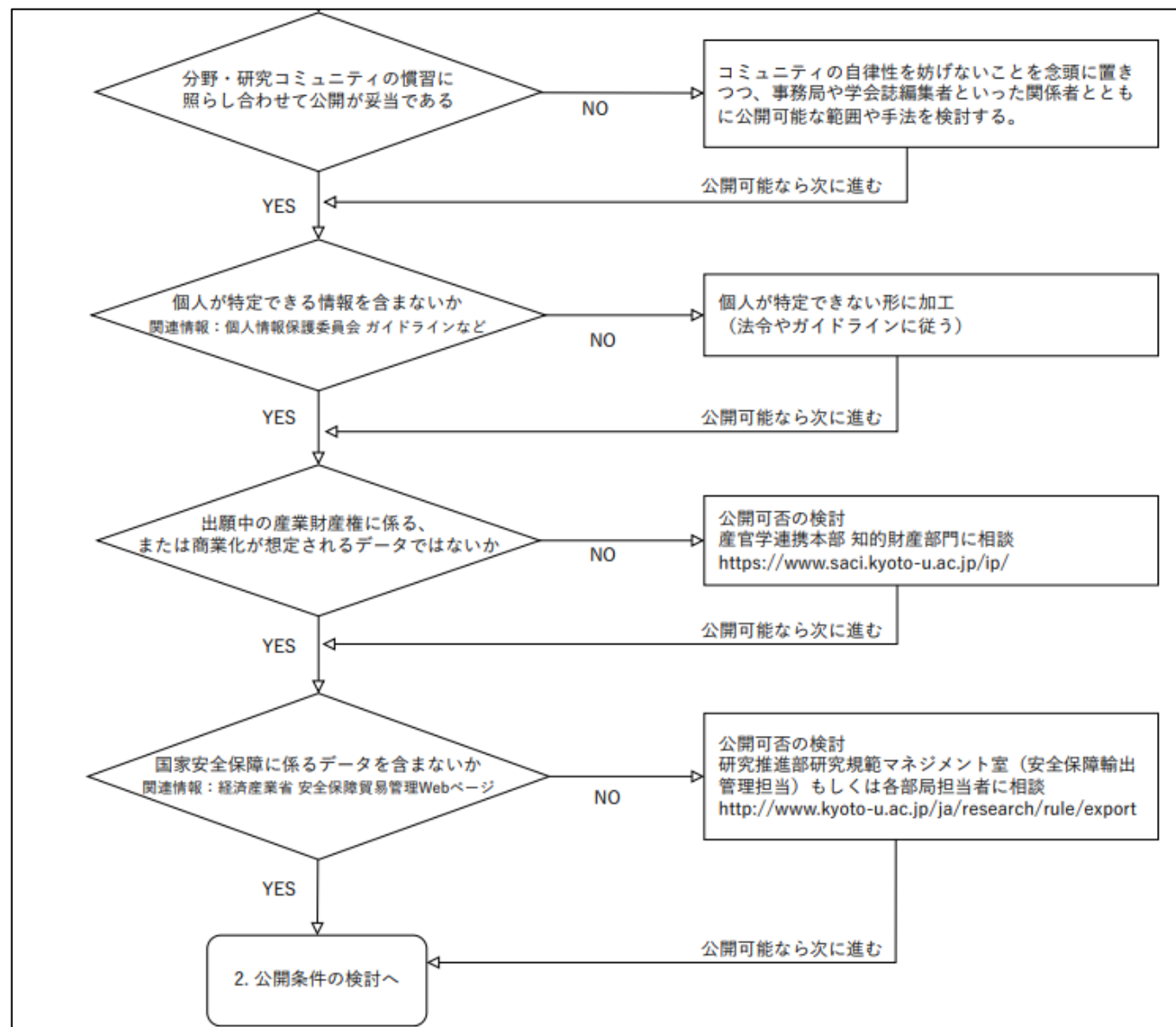
研究データ公開前チェックフロー

1. 研究データ公開可否の検討



次スライドへ続く

KURENAIにおける研究データ公開前チェックフロー



悩み：②公開可否について

以下のガイドラインも案内している

- 研究データの公開・利用条件指定ガイドライン（研究データ利活用協議会 研究データライセンス小委員会）
 - <https://japanlinkcenter.org/rduf/deliverable/index.html>

（今後の運用には以下なども参考に考えたい）

- J-STAGE Data データポリシー（利用機関向け）
 - <https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/JstageData/policy/-char/ja>
- 慶應義塾「研究データ」公開ガイド（慶應義塾学術（研究）データ公開ガイドライン）
 - https://www.research.keio.ac.jp/external/rdm/post_4.html

悩み：②公開可否について

J-STAGE Data データポリシー（利用機関向け）（抜粋）

5.2. 公開に制約が生じる研究データ

研究データに含まれる内容（機密性、プライバシー等）や、研究当事者の要望等から、データ公開に制約が生じる場合があります。以下のいずれかに該当する場合は、各項目の記述に沿って関連文書を参照の上、所属機関の関連部門にも確認の上、公開が可能かどうか確認してください。

- 分野・研究コミュニティの慣習等で、公開制限が一般的な場合
- 分野・研究コミュニティの慣習等で、既存のデータベースでの公開が推奨されている場合
- 個人情報を含む場合
- 国家安全保障、国際関係などに係る場合
- 共同研究契約や個別の契約により公開制限が定められている場合
- 所属機関（部署）、研究助成機関などによるポリシーが定められている場合

悩み：③公開条件の指定について

- 公開条件も研究者・研究グループが選択するとはいえ、個別事例にどこまで説明や支援ができるか
- 図書館機構でも支援体制としてアドバイスできる体制はとれるようにしたい（研修やリカレント教育等）

二次利用条件は以下から選択（初期画面CC BY）**（特に悩み中）**

- CC ...
- CC 0
- 二次利用条件を指定しない
- その他（GPL3.0+などライセンス名を記入してください）

私自身のスタンス（再）

- 京大自身もかなり以前から研究データに関する支援体制は準備してきており、義務ではなく、科学の発展のために
- 研究成果の発信は、知識の循環を支援してきた図書館にはなじみが深い。
- また、インターネットの発展により、急激に知識の生産者と消費者（読者）の距離が縮まってきている。知識の一大生産拠点である大学所属研究者が直接発信をし、かつ大学がそれを支援するのは当たり前の流れではないか。
- ということで、自分自身としても「義務」ではなく、前向きに科学の発展のために！